平成２６年度

運営に関する計画
自己評価シート

大阪市立鷺洲小学校

平成２６年度

学校のめあて

（代表委員会）

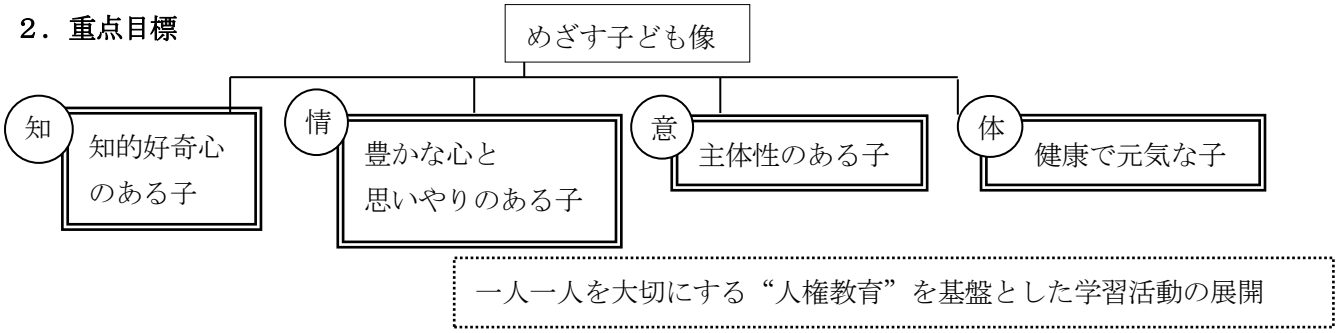
夢に向かって
はばたけ
鷺洲の星

◆ 学校運営の指針「基本となる考え方」
≪心豊かに力強く生き抜き未来を切りひらく力の育成≫

１．学校教育目標

心豊かな子どもを育てる

２．重点目標



３．学校運営の中期目標

現状と課題

【児童の全体的な状況】

・明るく素直でおおらかで、課題解決に向けて、ねばり強く取り組む意欲・態度が育ち、定着しつつある。
・自分の考えや思いを、多様な方法で表現できるようになってきているが、学習がやや受け身的で、「指示待ち」の姿勢がみられ、基本的な生活習慣及び社会性の不足が感じられる面がある。

【教科に関して】

・学習規律が確立され、全国学力学習状況調査でも、国語・算数とも全国正答率を上回り無解答率も低く学習の定着度が高い。
・授業で理由が分かるように気を付けて書くようにしているという意識は高いが、根拠や理由を明確にして記述することに課題がある。
・長文を書くのが難しいと考える児童の割合が全国に比較して高いという課題がある。今後、主旨をまとめる活動や作文指導等で課題別や習熟度別の少人数指導を取り入れて、定着度の一層の向上を図っていく。

【教員の研修】

・年間２２回の研究授業や工夫を凝らした研究討議、教科に関する講演会等、若手教員の育成に取り組みながら、授業力アップをめざしてきた成果の一端として、児童に「学習に対しても最後まであきらめず、やり遂げようとする意欲の育ち」が見られる。
・言語活動の充実に取り組んできた成果が現れているが、「自分の思いや考えを書く活動の工夫」「思考力・判断力・表現力を高める交流の場の工夫」に取り組んでいる本校の実践を継続し、論理的な思考力につながる言語活動の充実を今後も図っていく。
・専門家による授業を参観し学校外の「新しい知識や考え方」に接することは教員への刺激となり、教師力アップや学校力へとつながっているため、今後も継続していく。

【児童の生活の状況に関して】

・家庭地域と連携しながら、生活指導の充実に取り組んでいる成果として、基本的生活習慣が確立されている。
・朝食をとる、きまった時間に寝る、学校の学習はきちんとしようと、考える児童が多く規範意識も高く、自尊感情は育ってきている。また、自分には良いところがないと考える児童は、大阪市平均よりも少なく、学校での体験学習の成果は一定表れている。

中期目標

【視点　学力の向上】

習熟度別授業・少人数授業等、さらなる指導法の工夫改善を行い、児童に基礎的な学力を定着させ、「論理的思考力」や「学ぶ意欲の向上」を獲得させていきたい。その指標として、平成２７年度末の児童アンケート・保護者アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」と答える割合をすべての学年でそれぞれ８５％以上とする。

（カリキュラム改革・グローバル化改革）

【視点　道徳心・社会性の育成】

本校の学校目標「心豊かな子どもを育てる」には、互いに認め助け合い共に学び育ち合う児童の育成、集団の育成が不可欠である。違いを認め合い育ち合う集団の育成に向けたピアサポートの活動や企業や専門家を講師として招聘した体験学習（キャリア教育）を行っているが、平成２７年度にはその成果を全市に発信する。

（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネージメント改革）

【視点　健康・体力の保持増進】

体力づくり等、健康な生活習慣を身につけることができるよう、特に健全な食生活の確立に向けて食育に取り組んでいる。平成２７年度、校内アンケートで、「給食を残さず食べている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えがすべての学年で８０％以上にする。

（カリキュラム改革・ガバナンス改革）

【視点　研修の重点】

教員が指導法の工夫改善への取り組みを継続し、児童一人一人が自らの可能性を伸ばすことができるような教育活動を実践すること、各分野の専門家を招聘した研修会を幼・小・中合同で実施することは、学校活性化につながる。その指標として、平成２７年度、全教員による「授業研究」を実施するとともに、公開授業を年間延べ２００回行う。

（マネージメント改革・カリキュラム改革）

【視点　学校・家庭・地域との連携】

子どもたちの健全育成に地域総がかりで取り組む。幼小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。関係機関との連携や地域、保護者、ボランティアの協力を得え、教育活動をさらに充実させる。この成果を地域保護者関係機関に発信し、平成２７年度、校内アンケートで、「学校が適切に情報を発信している」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを９０％以上にする。

（マネージメント改革・ガバナンス改革）

４　本年度自己評価結果の総括　（概要）

年度目標	達成状況
【視点　学力の向上】 ・授業形態や授業内容を工夫し、一人ひとりの学習の定着度に応じて、個に応じた指導を実施する。 （カリキュラム改革・グローバル化改革） ・「大阪市スタンダードモデル」に対応できる、教育環境をソフト面、ハード面で整備する。 （グローバル化改革・カリキュラム改革） ・全教育活動で、言語活動の充実に取り組み、知的好奇心を促し、論理的思考力をはぐくむ。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革）	A
【視点　道徳心・社会性の育成】 ・ピア・サポート活動を活用して、互いに違いを認め合い育ちあう集団を育てるとともに、大阪市の教育財産の活用、企業や専門家、地域の方々を講師に招聘した体験的な学習に取り組み豊かな心の育成に努める。（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革） ・情報を共有化するとともに、対応についても学級担任が抱え込むことがないように学年や生活指導部会を活性化させる。（ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革） ・各学級で、学習規律やノーチャイムによる時間厳守を維持し、公共心や規範意識を醸成する環境を作る。（カリキュラム改革・グローバル化改革）	A
【視点　健康・体力の保持増進】 ・各学年、各学級で食育の年間計画に則り、実施する。（カリキュラム改革・ガバナンス改革） ・自らの健康に留意し、病気にかかりにくい環境について考えることができる児童を育成する。 （カリキュラム改革・グローバル化改革） ・運動の経験を通して仲間と豊かに交流し、運動の楽しさや喜びを味わい、健康の保持増進と体力の向上を図る。（カリキュラム改革・マネジメント改革）	A
【視点　研修の重点】 ・校内研修を活性化し、教科・領域の主任が講師となった校内研修を行い、相互研修を深め、教職員の授業力をアップする。（マネジメント改革・カリキュラム改革） ・全教育活動の中で、子どもたちの言語活動の充実を図り、学力の向上につとめる。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革・グローバル化改革） ・平成２６年度、大阪市や小学校教育研究会主催の校外での研修の参加率を９０％以上にし、授業改善をすすめていく。（マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革）	A
【視点　学校・家庭・地域との連携】 ・地域との交流活動を深め、学校の教育活動の情報を地域保護者に積極的に提供する。 （マネジメント改革・ガバナンス改革） ・小１プレブレム、中１ギャップ解消のため、幼小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。（ガバナンス改革・カリキュラム改革） ・防災・安全に対する心構えなどの指導を計画的、継続的に実施する。 （マネジメント改革・ガバナンス改革・学校サポート改革）	A

＊四段階の達成状況の評価の基準

Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した

Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

４．次年度への改善点

（１）一人一人が、自らの可能性を感じ、伸ばそうとすることができるような指導を継続する

・３年生～６年生の算数科や国語科，４年生～６年生の理科，外国語活動において、習熟度別少人数授業やＴＴによる授業をカリキュラムに位置づけ、習熟度別授業・少人数授業等、さらなる指導法の工夫改善を行い、基礎学力の定着や学ぶ意欲の向上を図る。

・年間計画に位置付けられた「朝読書」の時間や、時間割に位置付けられた図書の時間を活用し、語彙力言語力の定着及び向上を図る。

・整備したＩＣＴをより効果的に活用した授業展開について企業等の外部講師を招聘して研修を行うとともに、一層の教育活動の充実を目指して環境整備に努める。

（２）学校のきまりを守ってみんなが楽しく学校生活を送れる指導を継続する

・年間指導計画に位置づけたピアサポート活動で、同じテーマのもとに行う全学年を通しての実施を計画したり、異学年間の交流を深めたり、互いに認め助け合い共に学び育ち合う児童の育成をすすめる。

・年３回のいじめアンケートを実施するとともに、一人一人の教職員が児童の声を十分に受け止める、保護者とも連携を深める等「学校いじめ防止基本方針」に則り対応する。また、あらゆる場面できまりの再確認、学級での継続指導を行うとともに、児童が互いに声をかけ合うよりよい集団作りに努め、地域においても進んであいさつできる心の育成に努める。

・児童の状況について、生活指導部会、職員会議等を通して情報の共有化、必要に応じたスクールカウンセラーや児童連絡会の実施、様々な機関との連携など、全児童に対し全教職員で、「学校全体で適切な対応を取る指導、対応」の共通理解と指導を継続する。

（３）心身の健康に関心をもつよう指導すすめる

・「手洗い・うがい」の習慣化を図るため日々の声かけを実施したり、体力づくりにむけて児童が運動場で遊ぶ機会を増やすように教職員が一緒に運動場で活動するみんな遊びや体育的行事を実施し、児童自らが積極的に健康な生活習慣を身につけることができるよう継続指導していく。

・食物アレルギーについても保護者と連携した対応を継続するとともに、栄養指導や給食習慣、児童と保護者がともに学ぶ機会を活用し、家庭との連携を深めて「食」への関心を高める。

・定期的な清潔検査の実施と結果の周知、日々の声かけ等で身体の清潔への意識化を図かり、保健だよりをはじめ、リアルタイムで出す資料の活用、日々の学級での指導等により、感染症予防に対する意識を高める。

（４）今後も研修会や授業研究会を重ね、日々の実践にいかせるよう研修の充実を図る

・公開授業や研究授業、講師を招いての研修会等を重ね、成果や課題を共有しながら校内研修の活性化に努め、全教員による研究授業やワークショップ型研究協議会を重ねて培った力を交流や情報交換の場で学びあい、教職員の授業力アップ、学校力向上をめざす。

・大阪市や区などの施策を活用し、本校の教育活動のさらなる充実をめざすとともに、平成２９年度実施予定の「道徳の教科化」や「中学年における英語の実施」にむけた準備に取り組む。特に道徳においては、全体計画、学年別年間指導計画、各教科との関連一覧表等を整備する。

・引き続き、習得した「筋道立てて考え、根拠を示し、相手を意識して表現する」力を活用できるよう、学校生活のあらゆる場での言語活動の充実を図り学力の向上に努める。さらに、積極的に研修会に参加したり、授業の中に書く活動を計画的に取り入れたりする等、授業改善に取り組む。

（５）双方向の情報を大切にし、地域・保護者との連携を深めて、安全・安心で「楽しい」学校づくりに努める

・学校・家庭・地域の連携の中で子どもを育てるということを常に念頭に置き、今年度の取組をベースにして関係機関との連携や地域、保護者、ボランティアの協力を得え、教育活動をさらに深化・充実させる。

・学校通信、はぐくみネット、花まるメールやＨＰ等を活用して、地域保護者に情報を積極的に発信するとともに、各種アンケートや聞き取り、学校協議会での意見を大切にした、「開かれた学校運営」をすすめていく。

・幼保小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼保小中の一貫した「学び」をめざす。

大阪市立鷺洲小学校　平成２６年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　学力の向上】 ・授業形態や授業内容を工夫し、一人ひとりの学習の定着度に応じて、個に応じた指導を実施する。 **（カリキュラム改革・グローバル化改革）** ・「大阪市スタンダードモデル」に対応できる、教育環境をソフト面、ハード面で整備する。 **（グローバル化改革・カリキュラム改革）** ・全教育活動で、言語活動の充実に取り組み、知的好奇心を促し、論理的思考力をはぐくむ。 **（マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革）**	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【習熟度別少人数授業、理科教育、外国語活動の充実】 ３年生～６年生の算数で各学級、習熟度別や少人数指導を年間７００時間実施する。４，５，６年生の理科の実験の時間や外国語活動で指導者の複数配置を実施する。	A
指標　２６年度末の児童アンケート・保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」と答える割合をそれぞれ８５％以上とする。	
取組内容②【ＩＣＴを活用した教育の推進】 平成２６年度、言語活動を充実する授業の展開で、ICT を取り入れた交流を各学年の発達段階に応じて実施する。	B
指標　平成２６年度、全国学力学習状況調査の「普段の授業でインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている」と答える割合を大阪市のレベルにする。	
取組内容③【言語力や論理的思考能力の育成】 地域の図書ボランティアを活用し、図書館開放の機会の増加や低学年への読み聞かせを行う。	A
指標　全国学力学習状況調査の児童質問紙で「読書が好き」の項目で（どちらかといえば当てはまるを含む）の割合を全国平均以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①　３年生～６年生の算数科、４年生～６年生の理科、外国語活動において、習熟度別少人数授業やＴＴによる授業をカリキュラムに位置づけ実施したので、児童の実態に応じた指導の充実を図ることができ、児童の９５％、保護者の９７％が「授業が分かりやすい」と回答した。 ②　電子黒板やプロジェクター、タブレットＰＣなどのＩＣＴ機器を授業展開で積極的に活用することで、児童の言語活動が充実できた。 ③　地域の図書館ボランティアによる読み聞かせや図書館開放が読書への関心を高め、「読書が好き」の項目で全国平均を上まわった。

次年度への改善点
①　さらなる指導の充実を図る。 ②　ＩＣＴ機器の効果的な活用を図る。 ③　継続を図る。

年度目標	達成状況
【視点　道徳心・社会性の育成】 ・ピア・サポート活動を活用して、互いに違いを認め合い育ちあう集団を育てるとともに、大阪市の教育財産の活用、企業や専門家、地域の方々を講師に招聘した体験的な学習に取り組み豊かな心の育成に努める。**（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）** ・情報を共有化するとともに、対応についても学級担任が抱え込むことがないように学年や生活指導部会を活性化させる。**（ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革）** ・各学級で、学習規律やノーチャイムによる時間厳守を維持し、公共心や規範意識を醸成する環境を作る。**（カリキュラム改革・グローバル化改革）**	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【人権を尊重する教育の推進】 違いを認め合い育ちあう集団の育成に向け、平成２６年度、人権教育の年間計画にピアサポートの活動を位置づけ、上記体験学習を全学年で計画的に実施する。 指標　上記体験学習を全学年で年間１００回（ピア・サポート活動を年間５０回、講師を招聘した体験学習を全学年で年間５０回）実施する。	A
取組内容②【いじめ・問題行動に対応する制度確立、不登校や児童虐待などへの課題対応】 平成２４年度から実施している地域民生委員・主任児童委員・区役所・子ども相談センターとの「児童連絡会」を継続する。 指標　平成２６年度校内調査において、不登校児童数を前年度より減少させる。学校で認知した「いじめ」について解消に向けて対応している割合を１００％にする。	A
取組内容③【道徳教育の推進】 学級での指導の徹底やあらゆる機会を捉えて繰り返し指導することにより規範意識を定着させるとともに、児童が主体的に取り組む「あいさつ」運動を進めていく。 指標　平成２６年度校内調査において、「すすんで挨拶している」で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えが８５％にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①　ピア・サポート活動を年間指導計画に位置づけ、全学年で７１回取り組み、それをもとにして、互いに違いを認め合い支え合う心が育ってきた。また、多方面から講師を招き、話を聞いたり体験したりする機会を１１５回実施し、地域・社会の方々との関わりや結びつきが強くなり、豊かな心の育成につながった。 ②　年３回のいじめアンケートの実施や生活指導部会、職員会議等を通して情報の共有化を図り、必要に応じてスクールカウンセラーや児童連絡会等、様々な機関とも連携を取り、学校全体で適切な対応を取ることができた。 ③　登校時に職員からの声かけや学級指導、月目標等、あらゆる機会を捉えて規範意識を育てたり、いろいろなあいさつをくり返し指導したりしてきた。その結果、規律を守ろうと心がけたり、自分からあいさつをしようとしたりする児童が増え、目標を上回った。
次年度への改善点
①　ピア・サポート活動の全学年を通しての計画や異学年間の交流も深めていく。 ②　引き続き、全職員による共通理解と継続指導。 ③　あらゆる場面できまりの再確認、継続指導と児童が声をかけ合う集団作りに努める。さらに、地域においても進んであいさつできる心の育成に努める。

年度目標	達成状況
【視点　健康・体力の保持増進】 ・各学年、各学級で食育の年間計画に則り、実施する。**（カリキュラム改革・ガバナンス改革）** ・自らの健康に留意し、病気にかかりにくい環境について考えることができる児童を育成する。 **（カリキュラム改革・グローバル化改革）** ・運動の経験を通して仲間と豊かに交流し、運動の楽しさや喜びを味わい、健康の保持増進と体力の向上を図る。**（カリキュラム改革・マネジメント改革）**	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【食育の推進】 栄養教員による指導の年間３０回以上の実施と食物アレルギーの研修を年間３回行う。「弁当の日」等、児童と保護者が一緒に「食」について考える取り組みを実施する。	A
指標　平成２６年度の校内アンケートで、「給食を残さず食べている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えが８０％以上にする。	
取組内容②【健康に関する現代的課題への対応】 清潔検査を週１回実施し、学期に一度その結果を全校児童に発表する。感染症に対する予防の意識を啓発する。	A
指標　平成２６年度校内アンケートで、給食前に「手洗い・うがいを必ず行っている」を「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを８０％以上にする。	
取組内容③【子どもの体力向上への支援】 平成２６年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査を全学年で実施する。体育的行事や運動遊びを計画的に実施する。	A
指標　平成２６年度校内アンケートで「学校でよく運動遊びをする」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えが８０％以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①　栄養教員による指導と食物アレルギーの研修、「弁当の日」の取り組みを計画的に実施することにより、食への関心が高まり、偏食が少なくなり「給食を残さず食べている」児童が９８％以上になった。 ②　定期的な清潔検査の実施とその結果の周知及び日々の声かけ等で、身体の清潔への意識化が図られた。また、保健だよりをはじめ、リアルタイムで出す資料の活用、日々の学級指導等により、感染症予防に対する意識が一層高まり、給食前に「手洗い・うがいを必ず行っている」児童が９７％以上になった。 ③　体育的行事や運動遊び等の計画的な実施により、子どもどうしが声をかけ合い、楽しみながら運動する児童が増え「よく運動遊びをする」児童が８８％以上になった。
次年度への改善点
①　偏食をなくすためにも家庭への啓発と個別指導が必要。「弁当の日」についての再考。 ②　今後も「手洗い・うがい」の習慣化を図るため継続指導が必要。特に、「うがい」については、指導者の日々の声かけが必要。 ③　児童が運動場で遊ぶ機会を増やすためにも、指導者も一緒に運動場に出る時間を確保できれば一層よい。

年度目標	達成状況
【視点　研修の重点】 ・校内研修を活性化し、教科・領域の主任が講師となった校内研修を行い、相互研修を深め、教職員の授業力をアップする。　**（マネジメント改革・カリキュラム改革）** ・全教育活動の中で、子どもたちの言語活動の充実を図り、学力の向上につとめる。 **（マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革・グローバル化改革）** ・平成２６年度、大阪市や小学校教育研究会主催の校外での研修の参加率を９０％以上にし、授業改善をすすめていく。　**（マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革）**	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【授業研究を伴う校内研修の充実】 全教員が研究授業を実施する。研究の充実のため、研究支援事業等の大阪市の施策や外部団体の学校支援事業の活用を実施し、講師招聘資金を確保する。 指標　平成２６年度は公開授業を年間延べ１５０回、講師招聘の研究授業を１０回以上実施する。	A
取組内容②【言語力や論理的思考能力の育成】 平成２６年度、校内研究のテーマを「言語活動の充実」とし、すべての教科領域で取り組み、週に１度、語彙力の向上、言語領域の基礎の定着の徹底をめざした取り組みを行う。 指標　校内アンケートの「自分の思いを伝えることのできる子に育ってきている」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を７５％以上にする。	A
取組内容③【教育実践のイノベーションにつながる研究の推進】 学力調査のクロス集計結果を活かし、強化すべき項目に工夫して取り組み、効果検証・改善につとめる。 指標　授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る時間を設定する。また、単元の最後では学習の振り返りに「書く」活動を計画的に取り入れる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①　公開授業を年間延べ１９８回、学校支援事業を活用した講師招聘授業を１０回実施し、全教員による研究授業やワークショップ型研究協議会を行う等、校内研修の活性化を図った結果、教職員の授業力アップにつながった。 ②　学校生活の様々な場で言語環境を整えて、あらゆる教科・領域等で言語活動の充実に取り組み、学力の向上に努めた。その結果、言語力や表現力が伸び、９３％の児童が自分の思いを伝えることができる子に育っている。 ③　大阪市や小学校教育研究会主催の指定研修に１００％参加し、積極的に研究の推進を図った。授業では、学習のねらいの明確化と振り返りの場の設定をしたり、書く活動を取り入れたりすることで、意欲を持って学ぼうとする児童が増えた。

次年度への改善点
①　今後も公開授業や研究授業、講師を招いての研修会等を重ね、成果や課題を共有しながら校内研修の活性化に努める。全員研究授業の実施における参加体制を検討する等、研究授業の持ち方を工夫する。 ②　引き続き、学校生活のあらゆる場での言語活動の充実を図り、学力の向上に努める。 ③　さらに、積極的に研修会に参加したり、授業の中に書く活動を計画的に取り入れたりする等、授業改善に努める。

年度目標	達成状況
【視点　学校・家庭・地域との連携】 ・地域との交流活動を深め、学校の教育活動の情報を地域保護者に積極的に提供する。 **（マネジメント改革・ガバナンス改革）** ・小１プレブレム、中１ギャップ解消のため、幼小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。**（ガバナンス改革・カリキュラム改革）** ・防災・安全に対する心構えなどの指導を計画的、継続的に実施する。 **（マネジメント改革・ガバナンス改革・学校サポート改革）**	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【開かれた学校運営】 情報発信に、広報紙や「はなまる連絡メール送信システム」、ホームページを有効活用する。	A
指標　平成２６年度、校内アンケートで、「学校が適切に情報を発信している」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを８０％以上にする。	
取組内容②【小中一貫した教育の推進、幼児教育の充実】 平成２６年度、教員の８０％以上が参加する幼・保・小・中の合同教職員研修を実施し、幼児や児童が交流できる教育活動を実践する。	A
指標　平成２６年度、小中連携した外国語活動で教員の交流を各学期で実施する。小・小連携や幼・小合同の学校行事を学期に１回実施する。子どもたちが交流する実践の前後に行う教員の交流を「互いを知る」場と位置付ける研修を５回以上実施する。	
取組内容③【防災教育・安全教育と健全育成の推進】 平成２６年度、関係機関や企業、地域と連携した防災教育、安全教育、健全育成の取り組みを年間４回以上実施し、児童・保護者の意識の向上を図る。	B
指標　土曜授業等を活用し、保護者と児童がともに学ぶ機会を年間複数回設定し、保護者の参加率８０％以上をめざす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①　学校アンケートの結果では、保護者の肯定的な回答が９８％だった。学校通信・はぐくみ通信・ホームページ等による積極的な情報発信ができた。記事の内容にふれる保護者や地域住民の声を多数聞くことができたことからも、学校運営に対する理解が深まったと考える。 ②　幼小・小小・小中の異校種間連携が計画通りに実施された。教員相互の実践交流が「互いを知る」貴重な機会となるとともに、幼児・児童・生徒のさまざまな活動の工夫によって幼小中の一貫した「学び」の構築につながった。 ③　警察・消防・区役所・企業等多くの外部機関に協力を要請して、防災・安全等多様な体験活動を実施した。児童の学習態度や感想からも、意識の向上につながったと考える。保護者の参加率も目標値を上回り、本校の教育活動への関心の高さの表れだと考える。また、健全育成に関わる取組においても、近隣の教育機関や地域と連携のもと実施できた。
次年度への改善点
①　学校・家庭・地域の連携の中で子どもを育てるということを常に念頭に置き、今年度の取組をベースにして深化・充実を図っていく。 ②　防災教育・安全教育における保護者の関心がさらに高まるよう情報発信や啓発を続けていく。